

進路学習を、紙からデジタルへ。診断結果から生徒が自ら未来を調べる力を養いたい

昌平中学・高校 (埼玉・私立)

【活用キーワード】 >> ● キャリア教育 ● オンライン進路学習 ● 適性診断 ● 学校調べ

課題
コロナ禍のなかで進路行事がすべて中止に。生徒のために何ができるか

活用
5月から自宅で進路学習。回収率94%のデータを元に、夏から深い面談が可能に

文武両道の中高一貫校として、部活動進路ともに実績を伸ばしている昌平高校。2019年には国際バカロレア認定校となり、国公立大や難関私立大を目指す「特別進学コース」、部活動と大学進学を両立する「選抜進学コース」に加え、「IB（国際バカロレア）コース」も新設された。

「当校の教育方針は、手をかけ、鍛えて送り出す。進路指導も、教員が生徒と面談を重ね、第一志望を諦めずに実現できるように丁寧なサポートを行っています。しかし、コロナ禍のなかでスタートした今年度は、進路講演会などの行事はすべて中止。先が見えない状態でした。このピンチをチャンスに変えてくれたのが、昨年度から活用を始め、手ごたえを感じた『進路事典デジタル版』です。進路学習の新たな形が見えてきたと思いますね。進路指導部長の堀越直樹先生はそう話す。

これまで2学年の3学期にスタディサプリの「適性診断」などを活用して志望校選びを行ってきた同校では、昨年からはスマートフォンで進路検索ができるデジタル版を導入した。厚くて重く、生徒への配布が大変だった紙媒体よりも扱いやすく、今後の主流になると考えたからだという。

「しかし当校では、校内でのスマホ使用は禁止です。デジタル版を導入すると、生徒は教員の目の届かない自宅で進路学習をすることになる。できるだろうかという不安もありましたが、結果は振り返りアンケートの回収率92%。これまで任意だった『適性診断』にも、取り組む生徒が増えました。生徒に任せるとやらない、教員の思い込み。検索結果がその場で確認でき、興味を湧けば、進路学習も自主的にできる。これは大きな発見でした」と堀越先生。この経験を活かし、コロナ禍のピンチを

チャンスに変えようと、今年度2学年の進路指導を担当したのが、学年主任の小島アカネ先生だ。

「今年度は、4月から授業もホームルームもオンライン。5月半ばには生徒も教員も慣れ、スキルも向上していました。そこで、進路講演ができなかったら、3学期の進路学習を前倒しにして関心を向けさせたいと考えたのです。生徒と保護者に向け、何のために進路学習を行うのかというメッセージを送り、手順を伝え、ホームルームでフォロー。『適性診断』『学校調べ』『資料請求』と、振り返りのアンケートを2週間で作るのは大変だったと思いますが、回収率は前年度を上回る94%。自宅でも進路学習ができるので、深く考えた、親と考えたという生徒もいました。適性診断やアンケートの結果も、夏休み前の面談や、夏休みに行う三者面談の貴重な資料になりました」と小島先生。

今後は、デジタル版と丁寧な面談を組み合わせながら、新しい進路指導の形を模索していきたいという。

School Data

創立1979年／普通科
生徒数1900人(男子1136人、女子764人)進路状況(2020年3月実績)大学471人、短大5人、専門学校等24人、その他49人



左：進路指導部長 堀越直樹先生(社会)
右：2学年主任 小島アカネ先生(理科)

スタディサプリ for SCHOOL (進路事典デジタル版) 活用法

● 2019年1月、「進路事典デジタル版」導入



スマートフォンやタブレットで、いつでもどこでも進路学習ができるデジタル版。

適性診断結果がすぐにわかり、気になる学校を何度も調べられるのは、デジタルならではのメリット。

これまでの「スタディサプリ 進路」のラインナップを統合した新たなデジタル教材が「スタディサプリ for SCHOOL (進路事典デジタル版)」。「教員用の管理画面で生徒の進路学習の進捗状況を確認できる点がいいですね。締め切り前に生徒に声掛けをただけで、アンケート回収もスムーズにできました」と、堀越先生。

● 2020年度は、オンラインのホームルームも活用して進路指導



休校中の進路学習は、担任が管理画面を確認しながら指導。毎日実施していたオンラインホームルームで声を掛け、アドバイスを行ったという。

● 2020年夏、進路学習の個人結果レポートをもとに面談開始

「結果レポートは、生徒と担任の両方に届きます。これをもとに夏の面談を行うのは初めてのことで。デジタル版で、例年より前倒して進路学習を行ったことが、どんな成果をもたらしてくれるか、楽しみです」と小島先生。



取材・文／丸山佳子